

平成 22 年度事業計画

特定非営利活動法人サイバー・キャンパス・コンソーシアム TIES

1. 事業実施の方針

平成 22 年度の事業方針は、本法人が目指してきた、教育的コンテンツの質の向上・豊富化のための教育関係者との連携と支援の強化、および、優れた教育関係者の発掘・支援とその教育的成果の広報・顕彰を継続していきたい。また、帝塚山大学が幹事校となって平成 21 年度・大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラムに『北海道・関東・東海・近畿の大学連携による「知域」拡大プロジェクト』(以下、戦略的大学連携 GP という)というテーマで採択された事業が 2 年目を迎え、補助事業終了後の事業の有料化を視野に入れた取り組みに対して、本法人も全面的に協力していきたい。

本年度はこの主要な 2 つの事業方針に従い、①TIES のサポート事業の見直し、②事務局体制の整備、③戦略的大学連携 GP に関する様々な支援事業を推進する。

2. 平成 22 年度の主な事業計画

【特定非営利活動に係る事業】

(1) インターネットを活用した教育機関の教育連携を実現する支援事業

① TIES サポート事業

前年度に引き続き、大学間における教育連携を充実・促進するため、TIES を利用している教育機関に対して TIES 利用のサポートを実施する。

② TIES 運用・保守支援事業の検討

TIES 利用のサポート委託契約に関して、利用大学からその内容が実情に即しておらず、学内の調整が困難であるという意見が寄せられている。この課題に対処するため、TIES 理事大学を中心に「TIES 運用・保守検討委員会」(仮称)を形成し、TIES 運用に係る SLA (サービスレベルアグリーメント) や従量課金制による利用料の徴収等の可否を議論し、来年度から、より実情に即した「TIES 運用・保守支援事業」を開始できるようにしたい。

③ NPO 法人 CCC-TIES 夏のシンポジウム in 東京

前年度に引き続き、教育連携を促進するためシンポジウムを開催する。

主催	NPO 法人 CCC-TIES
共催	学校法人 創価大学
後援	大学コンソーシアム八王子
開催日時	2010 年 8 月 24 日(火)

会場	創価大学
対象	内外の教育関係者 教育機関 関連する企業・行政関係者
定員	70名程度

④ Live 配信・後援

インターネットを活用した教育連携を支援・促進するため、前年度に引き続きセミナーの収録支援、オンデマンド配信を実施する。今年度は前年度同様、大学が主催するシンポジウム等の支援を行うほか、NPO 法人 電子自治体アドバイザークラブが主催するネットワーク講座「クラウドコンピューティング」セミナーの収録支援、オンデマンド配信も実施する予定である。

⑤ タイピングコンテスト、川柳コンテスト

前年度に引き続き、TIES を利用している教育機関の学生を対象に「全国大学対抗 TIES タイピング大会」、「TIES 川柳コンテスト」を開催する。

「全国大学対抗 TIES タイピング大会」に関しては、平成 22 年度は戦略的大学連携 GP が当該事業の一環として行うため、本法人はイベントの公式アナウンスや副賞の提供などの後援を行うこととする。

全国大学対抗 TIES タイピング大会

期間	(予選)2010年6月21日(月)～7月12日(月) (決勝戦)2010年8月24日(火)
----	--

「NPO 法人 CCC-TIES 夏のシンポジウム in 東京」の会場(創価大学)にて、決勝戦を行い、上位校には本法人より表彰を行う。

(2) eラーニングのためのコンテンツ・ソフトウェアの制作と流通を促進する事業

① 中国人留学生に対する短期集中講義用の教材提供

前年度実施した、天津理工大学への『流通概論 2009』講義教材の提供で蓄積したノウハウを生かし、平成 22 年度は中国人留学生の質を担保することを目的とした、大学で必要となる留学生向けの日本語や日本の経済社会、文化歴史の、eラーニングを活用した学習教材の実験的な制作と流通を促進する事業を開始したい。

(3) eラーニングを活用した教育手法の調査研究事業

① 「みんなの TIES e カレッジ」

教育的コンテンツの質の向上と教員の教育力を社会に公開・顕彰するため、前年度に引き続き、TIES

利用教員の講義ビデオを編集し、インターネットによる一般公開を行う。

過去2年間、実験的に産経新聞社と共催して「産経 e カレッジみんな de 大学」を開催してきたが、本年度からは「みんなの TIES e カレッジ」として本法人が単独で主催し、教育関係者やマスコミ等へ積極的に広報するとともに、関連大学、企業からの協賛（バナー広告）募集、iPhone・iPadによる講義ビデオ受信など、新たな IT 活用の実験的な試みを行う。

開催期間	2010/08/20～2010/09/30
目標参加大学	20校(18校)
参加教員	40名(37名)
配信講義ビデオ	120本(119本)

()は前年度実績

② 「みんなの TIES e カレッジ」連携の公開講座

「みんなの TIES e カレッジ」は、インターネットによる大学教育の公開を通じた大学による地域貢献を支援する取り組みであるが、現状では、講義ビデオの一方的な配信であり、受講者とのリアルタイムの交流ができないという欠点がある。そのため今年度は実験的に、大学教員による一般社会人向けの講義ビデオを制作し、「みんなの TIES e カレッジ」でオンデマンド配信するとともに、配信した講義ビデオの内容をより掘り下げた公開講座を関連する地方の会場にて開催する。

「みんなの TIES e カレッジ」連携の公開講座の趣旨は、大学教員の専門的な知見を活用して、地域社会への貢献と活性化を図ることを目的とする。平成22年度は、日本の代表的な観光地である奈良と北海道が、それぞれの文化と歴史を研究者が掘り下げることによって両地域の接点を見だし、その相乗効果による新たな観光・環境資源の発見と活性化につながることを意図した、『奈良とアイヌをつなぐ文化セミナー in 北海道』（案）を開催したい。

また、今回の実証実験の後、このような企画の継続性や事業性について評価・検討を行うこととする。

テーマ	奈良とアイヌをつなぐ文化セミナー in 北海道
主催	主催：NPO 法人 CCC-TIES 共催：(財)北海道立文学館(調整中) 後援：札幌大学(調整中) 帝塚山大学附属博物館(調整中) 戦略的大学連携 GP(調整中)
開催日時	2010年9月12日、19日のいずれか(調整中)
会場	北海道立文学館
対象	地域振興、観光振興に関心のある方々、 奈良学、アイヌ学に興味のある方々
定員	100名程度

③ eラーニングを活用した教育手法の調査研究事業

eラーニングを活用した教育手法の調査研究の一環として、賛助会員企業等民間企業との共同研究、協同開発を推進したい。

④ 「TIES Review」(仮称)の電子出版

eラーニングを活用して教育手法や教育改善の成果を発表する当法人の電子機関誌「TIES Review」(仮称)の準備委員会を設立し、その刊行を検討する。

(4) 上記の活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助事業

① 戦略的大学連携 GP システム開発支援

戦略的大学連携 GP に係る事業推進に協力するため、当該事業連携大学に対し、TIES システムの機能を拡張するサブシステムの開発支援を継続するとともに、前年度に開発したシステムの保守を行う。

サブシステム名	開発援助依頼大学
(開発)単位互換相互補完サブシステム	帝塚山大学
(開発)生涯教育サブシステム	帝塚山大学
(保守)ビデオ問題作成サブシステム	札幌大学
(保守)学士力判定試験サブシステム	名古屋学院大学
(保守)FD 支援・学生支援サブシステム	愛知学院大学
(保守)モバイルラーニングサブシステム	創価大学
各サブシステム統合・調整	帝塚山大学

② 他組織連携

前年度と同様、奈良 NPO センター、JOCW、NPO 法人電子自治体アドバイザークラブ、大学 eラーニング協議会等、本法人と同様の目的意識を持った組織、団体と交流、情報交換を行う。

その他

NPO 法人 CCC-TIES の職員の配置と管理体制の規則・規程（職員就業規則、事務処理規則、会計規則、事務決済規程等）を整備、強化を実施したい。

3. その他の事業

事業実施計画なし